

平成25年度離島漁業再生支援交付金による取組概要

1 集落協定の概要

都道県名：長崎県

市町村名：佐世保市

協定締結集落名：佐世保市黒島漁業集落

交付金額：16,250千円（うち前年度からの繰越額 1,834千円）

協定参加世帯数：106人（うち漁業世帯106人）

2 協定締結の経緯

佐世保市黒島町は、西海国立公園九十九島の西方に位置し、この海域は良好な自然環境を有しており、当該地区漁業者にとって重要な漁場となっている。

交付金事業実施以前も、種苗放流・藻場の改善等を行い漁場の保全管理、有効利用を図ってきた。

しかし、漁業が基幹産業である当該地区についても、高齢化や後継者不足による漁業者の減少が進行している。さらに漁業資源の減少や燃油価格高騰など漁業者を取り巻く環境は厳しさを増していることから、当該地区の漁業の衰退が危惧される状況となっている。

このような現状を打開するため、当該地区漁業者自らが漁場の管理について話し合いを実施し、漁業生産活動の向上のための取り組みを実施するとともに、漁村機能の強化及び地域活性化の一助とするために、離島漁業再生交付金による漁業再生活動に取り組むこととした。

3 取組の内容

①漁場の生産力の向上に関する取組状況

i 種苗放流

近年、地域内漁獲量が減少傾向となっているため根付資源の種苗放流を実施し、地域内漁獲量の回復を図ることとした。

- ・アカウニ 2万個 ・アワビ 2万5千個
- ・カサゴ 1万5千尾・ヒラメ 3万尾
- ・オコゼ 1万尾 ・サザエ 3千5百個



ii 藻場・干潟の管理・改善

近年、藻場の減少が顕著となっているため、ガンガゼなどの害敵駆除を実施し藻場の回復を図ることとした。

- ・ガンガゼ駆除 8回（人数106人、用船24隻）
- ・雑海藻除去 4回（人数53人、用船9隻）



iii 産卵場・育成場の整備

産卵基盤となる柴の設置をおこないイカの産卵を促すことにより、地域漁業の中核を占めるイカ釣漁業漁獲の増加を図った。

・設置・回収 (人数41人、用船6隻)



iv 海岸清掃

近年、増加傾向にある海岸線の漂着ごみ・空き缶の回収をおこない、漁場環境の保全を図った。

・実施回数18回 (人数423人、用車13台)



v 漁場監視

夜間の漁場監視を実施することにより、密漁等による漁業被害を未然に防ぎ、漁場の秩序維持と漁業資源の保護を図った。

・実施回数 65回 (人数195人、用船65隻)



②集落の創意工夫を活かした取組状況

i 新たな漁具・漁法の導入 (新規養殖業への着業)

アオサの試験養殖に継続して取り組み、養殖網の設置、刈り取り、撤去をおこなった。

・設置・刈り取り・撤去 (人数45名、用船6隻)



ii 流通体制の改善、加工技術の改善、簡易加工

本事業で整備した加工施設を活用し、ウニや養殖試験で生産されたアオサなど地域漁獲物を加工し、観光客等の来島者に対し販売を実施した。



iii ブルーツーリズムへの取り組み

ツアーメニューとして販売が継続されている「黒島めぐる」に参画し、「ウニ割り体験」や「心天づくり」などを実施した。



iv 魚食普及

地域イベントの中で、小中学生を対象に「お魚捌き方教室」を実施し、この魚を利用した鍋などをつくり地域内交流の促進と魚食普及を図った。



4 取組の成果

近年同様、漁場の生産力向上に関する取り組みでは、種苗放流、藻場の改善維持など5事業を、創意工夫を活かした取り組みでは、アオサ養殖や魚食普及啓発など4事業が実施された。

本地域の近年の漁獲量は、平成22年度891トン、平成23年度834トン、平成24年度880トンと800トン台で推移している。集落事業開始前年度の平成17年度（593トン）と比較すると大きく増加しているが、これは、地域内で行われているマグロ養殖の生産量を加えたものであり、これを除くと、他の地域同様減少傾向となっている。

今後は、本事業において既に試みているアオサ養殖や地域漁獲物の加工品の規模を拡大し漁業所得の向上に繋げて行く必要があるものと考えられる。また、本市が「海風の国」佐世保・小値賀観光圏の認定を受けていることから、本事業の取り組みの一つであるブルーツーリズムへの取り組みを拡大し、黒島の魅力発信に貢献することにより、地域の活性化に繋がるよう期待したい。